

# 社会福祉法人 宮田福祉会 定款

## 第1章 総 則

### (目 的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

- (1) 第1種社会福祉事業
  - (イ) 特別養護老人ホームの経営
- (2) 第2種社会福祉事業
  - (イ) 老人デイサービスセンターの経営
  - (ロ) 在宅介護支援センターの経営
  - (ハ) 老人短期入所事業の経営
  - (ニ) 認知症対応型老人共同生活援助事業の経営

### (名 称)

第2条 この法人は、社会福祉法人宮田福祉会という。

### (経営の原則等)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

- 2 この法人は、地域社会に貢献する取組として、「日上生活又は社会生活上の支援を必要とする者」を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

### (事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を福岡県宮若市磯光 2159 番地 1 に置く。

## 第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、職員1名、外部委員1名の合計3名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

(評議員の任期)

第7条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
- 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなる時は、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第8条 評議員に対して、報酬等は支給しない。

## 第3章 評議員会

(構成)

第9条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第10条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任

- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

（開催）

第 11 条 評議員会は、定時評議委員会として毎年度 6 月に 1 回開催するほか、必要がある場合に開催する。

（招集）

第 12 条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

- 2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することが出来る。

（決議）

第 13 条 評議員の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行わなければならない。
  - (1) 監事の解任
  - (2) 定款の変更
  - (3) その他法令で定められた事項
- 3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第 1 項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第 15 条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。
- 4 第 1 項及び第 2 項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第 14 条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人 2 名がこれに署名する。

#### 第 4 章 役員及び職員

(役員の数)

第 15 条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6 名
  - (2) 監事 2 名
- 2 理事のうち 1 名を理事長とする。

(役員を選任)

第 16 条 理事及び監事は、評議員の決議によって選任する。

- 2 理事長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(理事の職務及び権限)

第 17 条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 理事長は、毎会計年度に 4 ヶ月を超える間隔で 2 回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第 18 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

(役員任期)

第 19 条 理事又は監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 3 理事又は監事は、第 15 条に定める定数に足りなくなる時は、任期の満了又は辞任により

退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第20条 理事又は監事が、次のいずれかに該当する時は、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第21条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

(職員)

第22条 この法人に、職員を置く。

- 2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。
- 3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

## 第5章 理事会

(構成)

第23条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

(権限)

第24条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長の選定及び解職

(招集)

第25条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故あるときは、各理事が理事会を招集する。

(決議)

第 26 条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をした時（監事が当該提案について異議を述べた時を除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第 27 条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 当該理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名する。

## 第 6 章 資産及び会計

(資産の区分)

第 28 条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産、公益事業用財産の 3 種とする。

- 2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(土 地)

- (1) 福岡県宮若市磯光 2159 番地 1 13,477.31 m<sup>2</sup>

(建 物)

- イ) 福岡県宮若市磯光 2159 番地 1 所在の鉄筋コンクリート造ルーフィングぶき・陸屋根平家建、特別養護老人ホーム、照陽園デイサービスセンター

1 棟 2175.50 m<sup>2</sup>

- ロ) 福岡県宮若市磯光 2159 番地 1 所在の鉄骨造陸屋根 2 階建ユニット型特別養護老人ホーム

1 棟 1 階 141.14 m<sup>2</sup>

2 階 1220.90 m<sup>2</sup>

- (2) 福岡県宮若市磯光 2159 番地 1 所在の鉄筋コンクリート造、コンクリート屋根、平家建、宮若市在宅介護支援センター照陽園 1 棟 85.25 m<sup>2</sup>

- (3) 福岡県宮若市磯光 2159 番地 1 所在の鉄筋コンクリート造、スレート葺平家建、照陽園グループホーム

1 棟 767.78 m<sup>2</sup>

- 3 その他財産は、基本財産及び公益事業用財産以外の財産とする。  
4 公益事業用財産は、第 36 条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。  
5 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第 2 項に掲げるため必要な手続き

をとらなければならない。

(基本財産の処分)

第 29 条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事会及び評議員会の承認を得て、宮若市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、宮若市長の承認は必要としない。

- 1 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- 2 独立行政法人福祉医療機構と協調融資(独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。)に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合(協調融資に係る担保に限る。)

(資産の管理)

第 30 条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(事業計画及び収支予算)

第 31 条 この法人の事業計画書及び収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の決議を経て、評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第 34 条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)
- (5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書
- (6) 財産目録

- 2 前項の承認を受けた書類のうち、第 1 号、第 3 号、第 4 号及び 6 号の書類については、定時評議員会に提出し、第 1 号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間（、また、従たる事務所に3年間）備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所（及び従たる事務所に）に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

（会計年度）

第33条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

（会計処理の基準）

第34条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

（臨機の措置）

第35条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意がなければならない。

## 第7章 公益を目的とする事業

（種別）

第36条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

- (1) 居宅介護支援事業
- 2 前項の事業の運営に関する重要な事項については、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意を得なければならない。

（収益の処分）

第37条 前条の規定によって行う事業から生じた収益は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業に充てるものとする。



## 第 8 章 解散

### (解 散)

第 38 条 この法人は、社会福祉法第 46 条第 1 項第 1 号及び第 3 号から第 6 号までの解散事由により解散する。

### (残余財産の帰属)

第 39 条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人のうちから選出されたものに帰属する。

## 第 9 章 定款の変更

### (定款の変更)

第 40 条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、宮若市長の認可（社会福祉法第 45 条の 36 第 2 項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を宮若市長に届け出なければならない。

## 第 10 章 公告の方法その他

### (公告の方法)

第 41 条 この法人の公告は、社会福祉法人宮田福祉会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞等又は電子広告に掲載して行う。

### (施行細則)

第 42 条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

## 附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長 荒牧敬三土  
理 事 永田久夫  
    " 佐川康弘  
    " 村上安彦  
    " 有吉衛司  
    " 松浦 実  
    " 渡辺昭吾  
    " 村山善吉  
監 事 武内功之  
    " 広門輝男

## 社会福祉法人 宮田福祉会

### 理事長 専 決 規 程

#### (目 的)

第1条 この規程は、定款第5条の規程に基づく業務の円滑な執行を把すると共に、責任の範囲を明らかにするため、理事長の専決について必要な事項を定めることを目的とする。

#### (定 義)

第2条 この規程で「専決」とは、理事長があらかじめ定められた範囲の業務をその責任において常時決裁することをいう。

#### (専決事項)

第3条 理事長の専決事項は、次のとおりとする。

#### 別表1

第4条 理事長の権限に属する業務のうち、施設長（所長）の専決のできる事項は、別に定めるものを除き次のとおりとする。

#### 別表2

第5条 この規程に定める専決事項であっても、次の1つに該当するときは理事会の同意を得なければならない。

- ① 異例に属し先例になることが考えられるとき
- ② 紛議紛争があるとき、又は処理の結果紛議紛争を生じるおそれがあるとき
- ③ その他特に理事会において事案を承知しておく必要があると認められるとき

## 附則

- 1.この規程は、平成15年10月15日より施行する。

## 別表1

### 社会福祉法人宮田福社会

### 理事長 専 決 事 項

1. 法人の理事、監事、施設長の任免を除く職員の任免に関する事。
2. 会計責任者及び出納職員の任免に関する事。
3. 職員の初任給及び昇給、昇格に関する事。
4. 基本財産以外の固定資産の取得及び改良等のための支出で、金額（評価額を含む）が300万未満のもの処分及び担保の提供に関する事。
5. 予算に定めた中区分の金額の流用に関する事。
6. 予備費の充当に関する事。
7. 契約金額が500万円未満の契約に関する事。
8. 施設、設備及び機械を利用する事業の受託に関する事。
9. 寄付金の受入に関する事。ただし、法人の運営に重大な影響があるものを除く。
10. 理事及び監事、施設長の旅行出張及び復命に関する事。
11. 理事、監事、施設長の休暇の承認に関する事。

- 1 2. 別に定めるものを除き施設長の職務に専念する職務の免除、服務に関する請願の許可又は承認に関すること。
- 1 3. 臨時職員及び嘱託職員の任免に関すること。
- 1 4. その他法人及び施設運営に重大な影響を及ぼさない法人の日常活動上必要な業務に関すること。
- 1 5. 債権の免除、効力の変更のうち、当該処分が法人に有利であると認められるもの、その他やむを得ない特別の理由があると認められるもの。  
ただし、法人の運営に重大な影響があるものを除く。
- 1 6. 設備資金の借入に係る契約であって、予算の権限内のもの。
- 1 7. 基本財産以外の固定資産の取得及び改良等のための支出並びにこれらの処分。
- 1 8. 予算上の予備費の支出

別表 2

社会福祉法人 宮田福社会  
施設長 専 決 事 項

1. 職員の出張、休暇、職務に専念する職務の免除等服務に関する請願の許可又は承認に関すること。
2. 経常的な収入及び支出に関すること。
3. 1件200万円未満の経常以外の支出及び物品購入契約に関すること。
4. 建設工事請負や物品納入等の契約のうち、次のような機微なもの。
  - ア 日常的に消費する給食材料、消耗品費等の購入
  - イ 施設整備の保守管理、物品の修理等
  - ウ 緊急を要する物品の購入等
5. 介護保険料等の収入に関すること
6. 諸帳簿、諸日誌の決裁に関すること。

7. 入所、退所手続きに関すること。
8. 入所者預り金の日常の管理に関すること。
9. 職員の日常の労務管理、福利厚生に関すること。
10. 損傷その他の理由により不要となった物品又は修理を加えても使用に耐えないと認められる物品の売却又は廃棄。  
ただし、法人運営に重大な影響がある固定資産を除く。
11. 入所、利用者の日常の処遇に関すること。